

資料名 およげないりすさん

内容項目：主として集団や社会との関わりに関すること—公正、公平、社会正義

(光村図書 2学年 74ページ 学研未来 2年 12ページ)

内容項目：主として人との関わりに関すること—友情、信頼

(教育出版 2年 50ページ 日本文教 2年 24ページ 広済堂あかつき 1年 60ページ)

1. 教材について

▼光村図書掲載の教材では「かんがえよう」という欄に「みんなとなかよくすることの大切さについて、考えましょう。」と書かれている。また、「しまであそんでいてもちっとも楽しくない三びきはどんなことをおもっていたのでしょうか」と問いかけてもいる。

▼しかし、子どもたちに自由に感想を言ってもらえば、りすさんがいないと楽しくない“という感想以外にも“あそんでいればりすさんがいないことなどわすれてしまう”“りすさんがおよげないのだからしょうがない”などさまざまな感想が出てくるのではないだろうか。

▼この話には不思議なところがある。なぜ島に遊具を置いたのか、という点だ。遊具を置いた人は泳ぐ以外に島に行く手立てを考えなかったのだろうか。道徳の教材には徳目を教えやすいように無理のある設定をつくる場合があるがこの教材もそうである。2年生では話しの設定自体を問題視するのは難しいかもしれないが、与えられた設定を鵜呑みにせず、検討してもよいのだ、ということは覚えておきたい。

2. 本資料を教材として使用する場合、特に注意すべきだと考えたこと

▼話の内容から考えて子どもたちが調べたりすることによって新たな視点が出てくることは考えにくい。子どもたち同士の対話を活発に行い、さまざまな視点を発掘するようにしたい。

▼対話の中でも次の点には注意したい。一つは教材が「しまであそんでいてもたのしくない」と子どもたちの気持ちまで決めつけている点である。教師は問いかけの仕方を工夫するなどして自由に気持ちを表現できる雰囲気をつくりたい。もう一つは「およげない」ことをバリアと考えればバリアを乗り越えるためには回りの人間の好意を当てにするしかないのか、という点である。

▼子どもたちが自分の意見を自由に表明し、対話の中で考えを深める経験がもてれば良いのではないだろうか。

3. ねらい

▼教材を読み解き、子どもたちの感想を聞き取る中でさまざまな視点に気づくこと、子どもたちが自由にいろいろな意見を言い、それをしっかり聞き取る、という学習活動を行うことをねらいとする。

4. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	これまで遊園地やテーマパークに行った経験を聞く。どんなところだったか、だれと行ったか、(電車で行ったとか、車で行ったとか) 行き方についても聞く。	このあとの授業で活発な意見が出るように雰囲気つくりを行う。遊園地等の写真や絵を見せても良い。

	<p>最初に▲りすがおよげないこと▲そのため一緒に遊べなかったこと▲りすがしまにいけなかったことをどう感じるか、などについて自由に意見を言ってもらおう。子どもたちの意見をいくつかに分類し、グループを作る。(おなじような意見のこどもでグループをつくる)</p> <p>グループ1 他のみんながりすを助けてあげるべきだ、という意見のグループ りすを助ける方法などを考える</p> <p>グループ2 りすは島に渡らなくても他に遊ぶ方法を探せばよいという意見のグループ 皆で島に渡らないでほかの遊びを考える</p> <p>グループ3 りすはしまであそびたければ、じぶんでくふうしてしまにわたればよいという意見のグループ りす以外は島に渡ってあそぶ</p> <p>各グループは自分たちの意見をまとめてその理由を含めて発表する。他のグループに質問したり、疑問を投げかけたりする。</p>	<p>グループを回って視点の違う意見が出るように声をかける。</p>
まとめ	<p>○どんな意見が出たか、意見の違いはどこにあったかなどをまとめる。</p>	<p>・自分と他の子どもの意見の違いを考えさせたい。</p>

4、授業を終えてのふりかえり

子どもの意見が自由に伸び伸びと言えたか、子ども同士の対話ができただか、その中で自分の考えを深めることができたか、という視点で授業をふり返りたい。

教師としてはあらかじめ予想していなかった子どもの意見に沿うことができたか、ということにも注意したい。

4. 指導過程 (その2)

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導 入	これまで遊園地やテーマパークに行った経験を聞く。どんなところだったか、だれと行ったか、(電車で行ったとか、車で行ったとか) 行き方についても聞く。	このあとの授業で活発な意見が出るように雰囲気づくりを行う。遊園地等の写真や絵を見せても良い。
	<p>役割演技をする。5人グループになる。4人が演技をし、一人は観察する</p> <p>1. あひるさんなどがしまへ行ってあそぶ相談をしているところ ▲りすが「つれていって」と頼むが聞き入れてもらえない りすは怒って自分の言いたいことをいう あひるさんたちも言いたいことをいう 役割演技をするときは役割の気持ちを考えて発言する</p> <p>2. 次の日、「きょうはりすさんもいっしょにしまへいこう」と誘っているところ。 各自、自由に気持ちを考えて発言する。</p>	自由に発言できたときりすやあひるたちはどんな気持ちを相手にぶつけるだろうか、という観点から子どもたちに発言を促す。
ま と め	りすは、みながじぶんをつれていってくれなかったとき、どんなきもちになったか、りすが怒っているいろいろなことを言ったときあひるたちはどんな気持ちになったか、発表する。	

4、授業を終えてのふりかえり

▼子どもの意見が自由に伸び伸びと言えたか、子ども同士の対話ができただか、その中で自分の考えを深めることができたか、という視点で授業をふり返りたい。

▼教師としてはあらかじめ予想していなかった子どもの意見に沿うことができたか、ということにも注意したい。